

瑞穂町図書館協議会委員研修 2018. 8. 6

研修地① 市立小諸図書館

当初の計画は、老朽化した駅の改築に合わせた併設案だった。しかし、地域住民から疑問の声が上がりしばらく凍結、その後、新たなコンセプトを求め住民を巻き込んでのワークショップを重ねる。

結果、市の方針も変わり現在地に建設。ワークショップに参加した方を図書館臨時職員に採用。選書もその方々と。正職員は館長と係長のふたりだけ。今後はNPO化の団体管理に移行の方向性も。広い空間、フルフラットの館内。その中を様々に工夫しての棲み分け。さらに、市役所と病院が隣接という条件を生かす工夫も。分類番号にとられない図書の配置。年齢層にあったコーナーの設置。入り口付近には郷土資料の展示コーナーも。高校生の学習ボランティアに部屋を提供。遠距離の他の図書館とのサービス連携はなしとか。

市立小諸図書館は平成29年11月28日をもって開館2周年を迎えた。これを記念して、日本ペンクラブ会長の吉岡忍氏を講師でお招きしての講演会を開催した。演題は『本を持って旅をする』。吉岡先生が実際に繰り返されてきた「その本が書かれた土地、その作家が旅した土地で本を読む」ことで読書という行為が「体験」へと変わること、「体験」こそが、情報の真偽を見抜く価値観を養うものであると話された。

研修地② 中軽井沢図書館

しなの鉄道中軽井沢駅併設。線路に沿った駅の地の利を生かした？
長細い建物。一階二階ともフラットな圧迫感のない空間。駅改札口からすぐに入館という位置関係も有利に。別荘永住者のほか、夏には沢山の利用者。住所さえ示せば地域を限定せず貸し出しカード発行。
館長の青木裕子さんは、(昭和48年)NHK入局 [2010年](#)6月30日、定年退職。[朗読](#)をライフワークとしており、退職に合わせ[長野県軽井沢町](#)に「軽井沢朗読館」を設立。2013年には同町立図書館館長に就任した。現在も東京に自宅を置き、NHKでの仕事も継続している。

★館長朗読会

【日時】 8月11日

(土) 14時～

【場所】 中軽井沢
図書館2階 多目的
室 『青い夜の底』小
池真理子著



両図書館とも講師料の悩み無し。関係者の声掛けと裕福な財政。また、軽井沢図書館では、『図書館友の会』の協力が絶大。有名講師を呼べるのも、理由はその辺に？

軽井沢にできた新たな”居場所”。モダンな中軽井沢図書館

軽井沢町のちょうど真ん中に位置する中軽井沢。町内でも特に生活に便利で、移住者にも人気のエリアですが、中軽井沢駅に併設された図書館がとにかくおすすめなのでご紹介したいと思います。



図書館が街中にある……それだけでなんかこう自分の中でグッとアガるものがあります。ここ、中軽井沢図書館ができたのは2013年。駅の全面リニューアルにともない地域交流施設「くつかけテラス」とともに併設されました。

まだできたばかりなんですね。中はモダンで清潔感のある雰囲気。広々としていて、とても居心地のいい空間です。席はゆったり使える大きな机と、集

中したい時に使える個人スペースに分かれています。電源が使える席もあり、館内は Wi-Fi 完備。集中してパソコン作業なんかにも持ってこいでしょう。そして軽井沢といえば浅間山！大きく開けた北窓からはズドンと一望できます。



イメージしていた図書館の学習室とはまったく違い、大人の利用者の方も目立ちますね。編集の仕事をしていると、たまにカフェなんかで仕事をしたくなる時もあると思うんですが、ここならその必要もなさそうです。引っ越してきたばかりなのにすっかりヘビーユーザーになってしまいました。

◆蔵書のボリュームも申し分なし！観光の情報収集にも



もちろん蔵書のボリュームもあり、軽井沢関連の雑誌やフリーペーパーもズラッと揃っているなので調べ物をするときもものすごく助かります。軽井沢に観光に来た時の情報収集所としてもおすすめですよ。

お腹が空いたら駅内のカフェでランチも可能。駅に寄ることがあれば一度来ていただきたいのですが、居心地が良すぎて用がなくても1日中入り浸っていただきます。



夜はガラスから光が漏れて幻想的な雰囲気。最近軽井沢に引っ越してきた僕も、正直この図書館に背中をグッと押されて、アパートの場所は中軽井沢エリアに決めました。

















